

新聞記事における外来語 「プロジェクト」のあつかいについて

瀧 本 麻奈美

1. はじめに

外国語が日本語に取り入れられて外来語となると、その意味・用法が変化することがある。その外来語の中でも特に気になったのが、機能の縮小が起きている「プロジェクト」（以下、外来語の場合はカタカナ表記）である。「プロジェクト」とは、「企画」や「開発事業」を意味し、英語の「project」（以下、原語の場合はアルファベット表記）には「計画する」といった動詞の用法がある。

外来語としては、2011年3月11日に発生した東日本大震災の影響により、メディア等で「復興プロジェクト」や「支援プロジェクト」など、大規模なものに「プロジェクト」が多く用いられている。加えて「プロジェクトX」や「ハロー！プロジェクト」といった番組名やイベント企画名として用いられるなど、「プロジェクト」の用法は多方面にわたっていると言える。

一方、日本語の文脈で「プロジェクト」を動詞として用いているものはあまり見られない。また、東日本大震災のための「復興プロジェクト」は国家的なプロジェクトで大規模なものであるが、「ハロー！プロジェクト」は芸能事務所の音楽事業であり、「復興プロジェクト」と比較すると大規模なプロジェクトとは言い難い。

これらのことから、「プロジェクト」には使用品詞の限定と使用対象の拡大に伴い、機能の縮小が起きていると考えられる。加えて、「復興プロジェクト」は社会的、「ハロー！プロジェクト」は文化的なものであり、使用分野においても拡大していると考えられる。

外来語としての「プロジェクト」は、どのようなもの、分野に用いられているか、語との結びつきはどのようになっているのかを調査し、考察していく。

2. 研究の目的と意義

事業や計画を意味する原語の「project」が、日本語の文脈において、どのような分野のものに用いられているかを調査することで、外来語としての「プロジェクト」の実態と内容を明らかにする。また、「復興プロジェクト」のように、漢語と結びついているもの、「ハロー！プロジェクト」のように、外来語と結びついているものがある。そのような語との結びつきについても語構成の観点から調査し、外来語としての「プロジェクト」の使用状況を明らかにする。

本研究で「プロジェクト」の内容、使用状況を明らかにすることで、企業に就職して「プロジェクト」を立ち上げ、または関わる際に、「プロジェクト」の概念と意味内容を正確に捉えるための一助となれば幸いである。

3. 先行研究

金（2011）は、『毎日新聞』を調査資料とし、1950年から2000年までの『毎日新聞』における単独の自立語として用いられている「プロジェクト」とその類義語の使用状況について調査している。「プロジェクト」と類義語の出現率は、〈表1〉のとおりである。また、「プロジェクト」の出現度数については、次の〈表2〉に示す。

〈表1〉『毎日新聞』における「プロジェクト」と類義語の出現率（金2011より）

	50年	60年	70年	80年	91年	00年
プロジェクト	0	0	3.25	16.89	5.49	5.14
計画	15.08	27.56	28.33	19.70	13.16	17.15
構想	47.11	35.31	23.22	23.92	20.84	9.86
企画	3.77	3.45	9.75	4.69	10.42	7.72
事業	24.50	21.53	15.79	11.26	10.97	30.01

〈表2〉『毎日新聞』における「プロジェクト」の出現度数（金2011より）

通年度数	増加係数	50年	60年	70年	80年	91年	00年
273	10	0	0	23	157	38	55

〈表2〉より、「プロジェクト」は新聞記事において1950年と1960年には用いられていないことがわかる。次の調査対象年の1970年には23例出現していることから、1960年から1970年の間に使用されるようになったと考えられる。次の1980年には出現度数が大幅に上がっているが、1991年以降は出現度数が下がっており、「プロジェクト」の使用には年によって差があるようである。

同調査では対象年の毎月5日と25日、毎年24日分の朝刊全紙面を調査するという方法をとっているが、次の記事は対象外としている。

広告、テレビ・ラジオ欄、都内版・地方版（シティニュースと都民ニュースを含む）、俳句・川柳、証券・株、人事、決算、訃告、競馬、囲碁、将棋、相撲の取り組み表、写真・地図・表・イラスト・漫画およびその説明、「きょうの運動」、「10年前」

また、金（2011）は外来語の基本語化に焦点をあてて調査を行っており、「プロジェクト」は新聞記事において、増加傾向にありながらも類義語を上回る、基本語化する勢いはないとの見解を示している。確かに〈表1〉と〈表2〉から見ると「プロジェクト」の出現率は1980年がピークで、以降は下がっている。しかし、先にも述べたように、東日本大震災の影響で様々なプロジェクトが計画されており、さらに、芸能事務所の事業名に用いられるなど、使用対象の拡大によって用いられる範囲が増加し、近年では出現率が高まってきていると考えられる。加えて、金（2011）の調査は文章中での使用状況には着目しておらず、調査対象としたものは単独の自立語として用いられているものであり、複合語として用いられているものは対象から外している。そのため、「プロジェクト」が用いられている分野や語との結びつきなど、「プロ

ジェクト」の中身が不透明である。本研究では分野や語構成に焦点をあてて、調査していきたい。

4. 研究方法

「プロジェクト」は主に、会社や国家の事業として用いられることが多いが、音楽などの芸術面にも用いられている。よって、使用状況の調査には、社会情勢、出来事、文化活動などを総合的に報道する新聞記事を主として用いる。本稿では、『朝日新聞』の記事のオンラインデータベース「聞蔵Ⅱビジュアル」を利用し、記事から「プロジェクト」を抜き出し、使用状況を調査し分析する。使用分野においては、新聞記事の掲載欄を参考にする。

なお、用例の検索対象とする記事は『朝日新聞』本紙の朝刊とする。また、金（2011）が調査対象外とした記事は本稿でも調査対象外とし、加えて「朝刊be」とその前身である「日曜版」は折り込みのような別扱いの紙面であるので、対象外とする。

5. 「プロジェクト」の意味

5-1 「project」の原義

英語の「project」の原義と現在に至る語義は次の<表3>のとおりである。

<表3>英語の「project」

<『ジーニアス英和辞典』（2008）より>

<p>【原義：前方へ（pro）投げ出されたもの→ヒント、案。cf. object, reject】</p> <p>名詞</p> <p>①〔仕事・活動のための〕計画、〔…する〕企画。</p> <p>②（大規模な）事業（計画）、プロジェクト。</p> <p>③〔教育〕研究計画、〔…についての〕学習課題。</p> <p>④《米略式》（低所得者のための）公団住宅、団地〈housing project〉。</p> <p>他動詞</p> <p>①《通例受身》〈人が〉〈大きさ・費用・量など〉を見積もる、算定する。</p> <p>②《通例受身》〈人が〉〈活動・事業など〉を計画する、考案する。</p> <p>③〈人・機器などが〉〈光・影など〉を〔…に〕映写する、投影する。</p> <p>④〈自己の資質・感情・信念など〉を（行動で）表現する、…の印象を与える。</p> <p>⑤『心』（無意識に）〈感情・観念など〉を〈他の対象に〉投射[投影]する、〔…の〕せいにする。</p> <p>⑥〈物〉を突き出す、張り出す、〈水・ガス・ミサイルなど〉を〔…に〕放出[発射]する、〈声〉をはっきり大きく出す。</p> <p>⑦『幾何〕…を投影する、〈地図〉を投影法で作る。</p> <p>自動詞 〈物が〉〔…に／…の上に／…から／…を通して〕突き出る、出っ張る。</p>
--

『ジーニアス英和辞典』（2008）（以下『ジーニアス』）と『新英和大辞典』（2002）では、どちらも仕事などにおける計画と、大規模なものを分けて記載しており、必ずしも大規模なものを示すということではないようである。さらに、教育学用語として、「研究課題」または「研

究計画」の記述も共通している。また、『ジーニアス』（2008）には動詞の意味が細かく分けられており、心理学用語などの専門用語の意味記述が見られ、使用分野が多岐にわたることが分かる。

『新英和大辞典』（2002）には「構案教程」との記載があるが、これは教育学用語の「プロジェクト・メソッド」（構案法）を日本語に訳したものであると考えられる。

「project」の語源について、『ジーニアス』（2008）、『メモリー英語語源辞典』（1998）、『スタンダード語源辞典』（2004）の3つの辞書において記述があり、「project」の構造は、「前」や「前方」を示す「pro」と、「投げる」を意味する「jacere」というラテン語を起源としていることがわかる。「project」の訳語である「計画」や「企画」は、あることを行なうために、前もって方法などを考えることであり、「前もって考えを出す」から「投げる」という構造になっているのだと考えられる。

5-2 「プロジェクト」の辞書における意味記述

辞書における「プロジェクト」の記述を調べる。5種類の辞書の記述を<表4>に示す。

<表4> 「プロジェクト」の辞書における意味記述

辞書名	出版年	意味記述
『日本国語大辞典（第二版）』	2002	① 研究や事業などの開発計画。 ② 「プロジェクト・メソッド」の略。
『大辞林』	2006	新しいものを考え出し、実用化するための研究や事業。
『カタカナ語・略語辞典』	2000	計画。企画。大規模な事業計画。研究・調査の課題。
『カタカナ類語辞典』	2002	企画、計画事業、開発事業。研究・事業などの企画。細部にわたって綿密に立案された大がかりな企画。 ラテン語のprojectum（突き出ている部分）から。
『カタカナ語辞典』	2006	① 計画、企画、事業、開発事業。 ② 計画する、予測する、投影する。

<表4>には「企画」「計画」「開発事業」といった意味の記載があり、<表3>の「project」との意味の差異はあまり見られない。『カタカナ語・略語辞典』（2000）と『カタカナ類語辞典』（2002）においては、規模の大きいものを示すという記述が見られたが、その他の辞書には見られなかった。『大辞林』（2006）には「新しいものを考え出し、実用化するための研究や事業」とあり、限定された意味であることがわかる。これは企業の事業戦略には、他の企業と差別化を図るために大規模な事業や新しい事業を始めることがあるので、そのような記述があるのだと考えられる。

『カタカナ類語辞典』（2002）にのみ、「ラテン語のprojectum（突き出ている部分）から」という語源が書かれていた。これは『スタンダード英語語源辞典』の意味記述とは異なるが綴りが一致する。

〈表3〉の『ジーニアス』で細かく分類されていた動詞の用法は、『カタカナ語辞典』でのみ確認することができた。このことから、「プロジェクト」は動詞としてはあまり用いられていないのではないだろうか。また、「project」のように、教育学用語としての記述は、『日本国語大辞典(第二版)』(2002)の「『プロジェクト-メソッド』の略」という記述のみであった。

6. 「プロジェクト」の使用背景

6-1 自由国民社発刊『現代用語の基礎知識』における掲載状況

1967年から2010年までの『現代用語の基礎知識』(以下『現代用語』)から、金(2011)の調査と同様に10年ごとに「プロジェクト」の掲載状況を調査した。

〈表5〉『現代用語の基礎知識』における「プロジェクト」の掲載状況(1967~2010年版)

年	意味記述
1967	重要技術。宇宙開発、原子力開発などは大型プロジェクトといい得る。政府予算案の中に、通産省で出した大型プロジェクト研究開発費などということばで使われる。
1970	同上。
1980	重要技術。宇宙開発、原子力開発などは大型プロジェクトといい得る。
1990	同上。
2000	研究や開発のための計画。
2010	同上。

〈表5〉において、「プロジェクト」が初めて記載されたのは1967年版で、2000年版からは「大型」とは書かれなくなり、単なる計画のことを指すという説明になっている。初めて掲載された1967年版には「重要技術」と説明されているが、現在は2000年版にあるように、「計画」と説明されることが一般的であり、辞書の記述を見ても、「技術」と説明しているものは見られなかった。

当時は宇宙開発や原子力開発など、大規模なものに用いられていたようである。これは、人目につくような、話題性のある出来事を記載する新聞記事の特徴のためであるとも考えられる。

『朝日新聞』の朝刊に「プロジェクト」が記載されたことを確認できるのは、縮刷版1965年11月20日の7面であった。記事の見出しと本文を次に示す。

大型プロジェクトの長期計画を承認 工業技術協議会
通産省が来年度予算要求している大型プロジェクト(重要技術)研究開発の長期計画を審議承認した。これは超高性能電子計算機など六つの重要技術開発の七カ年計画。

『現代用語』の1967年版に「重要技術」と記載されていたが、『朝日新聞』の記事にも上記のとおり「重要技術」の記載があった。「七カ年」とあるように、期間の長い大規模な計画であることがわかる。「超高性能電子計算機など六つの重要技術開発」とあることから、当時は宇宙開発や原子力開発などの開発によってもたらされる「技術」に力点を置いて「プロジェクト」

が用いられていたのではないだろうか。

『朝日新聞』の記事にも「大型」という修飾語が伴われていることから、日本ではまず大規模の意で「プロジェクト」が用いられるようになったと考えられる。また、括弧に「重要技術」と補足されており、まだ「プロジェクト」という外来語が浸透していなかったことがうかがえる。

6-2 教育用語としての「プロジェクト」

『現代用語』を調査していて、「プロジェクト・メソッド」(『現代用語』における「method」のカタカナ表記であり、「メソッド」と同義)が、「プロジェクト」が初めて掲載される以前の1963年版に記載されていることがわかった。以下に1963年版の『現代用語』における「プロジェクト・メソッド」の掲載を示す。

構案法と訳す。子どもの實際生活に密接な関係を持ち、かつ、一定の目的や計画のもとに有機的に結合された事象、問題を提供し、子ども自身をしてこの解決にあたらせようとする、現代の教授法の一つである。その過程としては、①目標の設定、②計画、③遂行、④結果の検討が含まれなければならないが、特に遂行にあたって身体的活動を多く含む点に特徴がある。

プロジェクト・メソッドとは教育学用語で、1920年代を中心にアメリカのキルパトリックらによって行われた教育指導法である。①から④の過程が含まれている点がプロジェクトに相当すると考えられる。遠座・橋本(2009)は1920年代の教育雑誌記事を調査し、1921年に「プロジェクト・メソッド」が教育雑誌で紹介、導入され始めたことを明らかにしている。このことから、日本ではまず「プロジェクト・メソッド」が用いられるようになり、「プロジェクト」が派生したと思われる。しかし、遠座・橋本(2009)は教育雑誌のみを調査していることから、世間一般に広く浸透していったとは考えにくい。『朝日新聞』で調査したが、「プロジェクト・メソッド」を記載した記事は見られなかった。<表4>の「プロジェクト」に教育学用語の記述がなかったのは、『日本国語大辞典』②の記述にあるように、「プロジェクト・メソッド」に限定して用いられているからではないだろうか。

一方、日本語教育の分野においては、「プロジェクト・ワーク」という教授法が導入されている。名柄・茅野・中西(1989)は、プロジェクト・ワークとは学習者たちが話し合っって計画を立てて実行し、結果をまとめてプロジェクトを完成させていくものであると示している。これはプロジェクト・メソッドと同様に学習者中心主義の教授法である。

6-3 経済用語としての「プロジェクト」

プロジェクトは企業が企画することが多く、新聞でも企業が企画したプロジェクトの内容を説明しているものが掲載されている。プロジェクトを成功に導くために、プロジェクトを管理(マネジメント)することが重要であり、1998年に「PMI日本支部」が発足した。PMIによると、プロジェクト・マネジメントとは、「プロジェクトの要求事項を満足させるために、知識、スキル、ツールと技法をプロジェクト活動へ適用することである」としている。また、プロジェ

クト目標を達成する責任者をプロジェクトマネージャーといい、1995年からはプロジェクトマネージャ試験が日本で実施されるようになってきていることから、プロジェクト・マネジメントの重要性は近年高まっていると考えられる。

金(2011)の調査で、調査対象年により「プロジェクト」の使用量に差が見られたが、これは当時の日本の経済情勢に起因していると考えられる。金安(2002)は「どんなに立派なプロジェクトの計画を持っていたとしても、社会の基礎基盤となる経済状況が悪ければ、何もできないといったことが起こりうる」と述べている。1955年から1973年の高度経済成長期に日本経済は飛躍的に発展し、1969年には当時の経済企画庁の国土審議会会で「新全国総合開発計画」が策定され、産業開発プロジェクトが計画された。このプロジェクトには重化学工業や農林水産業、観光産業の展開も計画されており、大規模なプロジェクトの構想が示されている。このことから、当時は政府によって様々なプロジェクトが進められていたことがうかがえる。

高度経済成長期にあたる1970年の1年間の『朝日新聞縮刷版』で「プロジェクト」を調査すると、7例の用例が見られた。以下に同年5月22日8面の「プロジェクト」の用例を示す。

建設業の仕事が次第に複雑化し、さまざまな専門家を集めた組織の力がものをいう時代になったのに対処するのがねらいで、プロジェクト・チームを育てたり「一括責任方式」を押し進めたり、さらに英文社名を変更するなど、これまでの建設業のイメージを大きく変えようとしている。

この記事はある企業が、建設業が様々な要素により複雑化し、それぞれの専門家を集めたプロジェクト・チームが必要になってきたという理由から、プロジェクト・チームの育成に力を入れる方針を検討しているという内容である。政府のみならず企業においてもプロジェクトの重要性が認識されていたことがわかる。この「プロジェクト・チーム」は1970年の「プロジェクト」の用例7例中3例見られた。『現代用語』では1968年版に初めて記載され、「弾力的にチームの編成・解体を反復することが中心課題となる」とある。継続する業務ではないとされるプロジェクトを、よりの確に速く達成させるために結成される組織であると考えられる。

金(2011)の調査では、1980年に「プロジェクト」の出現度数が大幅に増加している。1980年の1年間の『朝日新聞縮刷版』を調査すると、「プロジェクト」の用例は74例あった。以下に同年9月5日8面の「プロジェクト」の用例を示す。

住友化学工業を中心にナショナルプロジェクトとして取り組んでいるシンガポール石油化学プロジェクトのなかで、三菱化成工業と協和醗酵工業の両社がシンガポール政府と住化と合併で塩化ビニール樹脂の可塑(かそ)剤原料であるオクタノールを企業化することが、四日までに決まった。

これは日本企業とシンガポールの共同プロジェクトの記事であり、複数の企業が様々な国に石油を求めてプロジェクトに取り組んでいたことがわかる。「ナショナル・プロジェクト」とあることから、国を挙げたプロジェクトが行われていたようである。

1986年からは金利の低下や株価・地価が高騰し、バブル経済となった。1989年から株価・地価が暴落し始め、金(2011)が調査した1991年には景気が悪化していたことから、<表2>に

あるように、1980年には157例であった「プロジェクト」の出現度数が、1991年には38例に減ったのではないかと考えられる。

以上のことから、プロジェクトの使用量の変化には、日本の経済情勢が関係していると思われる。

7. 『朝日新聞』(2011)における「プロジェクト」の使用状況

教育や経済など、分野における「プロジェクト」の使用例を調査し、様々な要因によって「プロジェクト」の使用量に変化してきたことが明らかになった。次に2011年の『朝日新聞』記事における「プロジェクト」の内容と使用状況を明らかにする。「聞蔵Ⅱビジュアル」を利用し、金(2011)と同様に、毎月5日と25日、計24日分の朝刊全紙面を調査した。調査した「プロジェクト」の用例について、次のように分類する。

- | |
|---|
| ・単独(動詞・形容動詞・助詞・助動詞・副詞が前後にあるもの、括弧でプロジェクトと前後の語が区切られているもの) |
| ・複合語(名詞・形容詞が前後にあるもの) |
| 和語と複合しているもの |
| 漢語と複合しているもの |
| 外来語・外国語と複合しているもの |
| 複数の語種と複合しているもの |

なお、記事内の政治家以外の個人名はアルファベットで表記した。単独で「プロジェクト」が用いられているグループを<表6>に示す。色の違うものは震災関連の記事を示す。

<表6>単独で用いられているグループ

	掲載日	欄	本文
①	1月25日	特設	育児などで就労を躊躇する女性が200万人います。そこで、内閣の特命チームは、2万6千人に上る待機児童を解消するプロジェクトを用意しました。
③	1月25日	科学	「国内では初め、プロジェクトの認知度が低かったので、メーリングリストを立ち上げて、全国の大学や研究所にいる海洋生物の研究者に参加を呼びかけました」
④	1月25日	生活	今は財政課主任として予算査定真っ最中。iPadで読める図書館電子化のプロジェクトも任されている。
⑩	3月25日	特設	取材のため緊急車両で藤沢町に立ち寄った記者の私も、プロジェクトに巻き込まれた。2日間、医師や看護師を宮城県気仙沼市の避難所に送り迎えし、乏しい物資を運んだ。
⑯	5月5日	生活	「カンボジアのお母さんに使い勝手の良いものを縫ってもらってはどうか。それを日本のお母さんが公正な価格で買い取れば、その収入で現地の子どもたちは小学校を辞めずにすむかもしれない」。Oさんの発案で09年、プロジェクト「Mother to Mother(母から母へ)」が始まった。
⑳	6月5日	教育	09年8月に東京の大学生十数人が始めたプロジェクト「わかもの科」は、高校生向けに、社会を共に考える「授業」を提供している。
㉓	6月5日	教育	テーマは政治、環境、金、死と幅広い。また、高校生が大学生の助言を受けながら社会問題に取り組むプロジェクトもある。

㉑	9月25日	東特集	〇氏は、韓国・濟州島での次世代送電網（スマートグリッド）の実験計画で、資金抛出の1割が政府で残り9割が民間との例を示し、「起爆力は税金だが、拡大するのは民間。組み合わせてプロジェクトを進めることが大事」と述べた。
㉕	10月5日	生活	東日本大震災の被災地の教育施設などにピアノを贈る「スマイル募金・ピアノ贈り隊」を立ち上げ、協力を呼びかけている。（中略）プロジェクトへの参加方法は（後略）
㉖	10月5日	社会	東京都の猪瀬直樹副知事は4日、ベトナムのハノイで、現地の水道公社と浄水場を建設するプロジェクトを進めていることを明らかにした。
㉔	12月5日	科学	クマムシの1種でヨコヅナクマムシのゲノムを調べるプロジェクトが、東京大などで進んでいる。

単独の用例は全44例中11例であった。単独で用いられている「プロジェクト」において、直前に具体的な内容を示しているものは①、④、㉖、㉔の4例である。⑬、⑰、㉕はプロジェクトの名称を鉤括弧で示している。

③は<表9>の②の「海洋生物センサス」というプロジェクトのことであり、⑩は<表8>の⑨の震災に関連したプロジェクトのことである。両者とも同じ記事内に別の用例があるため、単独で使用されたのだと考えられる。一方、㉕は「プロジェクト」を前段で用いていないにもかかわらず単独で使用されている。名称に当たるのが「スマイル募金・ピアノ贈り隊」である。

㉔は大学で行われている科学プロジェクトである。前部に「調べる」という動詞があり、このように、プロジェクトの前部に動詞がきているものは①、㉓、㉖、㉔の4例あった。

政府や自治体、企業が行う国家的、国際的なプロジェクトは11例中6例で、単独で「プロジェクト」が用いられている用例は、直接「プロジェクト」に規模の大きさを示す修飾語はないが、文脈から大規模なプロジェクトであるとわかる。単独の用例には、前部にそのプロジェクトの内容を示す語（動詞）が用いられるもの、前文に現れた「プロジェクト」と同じ内容を示すもの、鉤括弧に名称を記したものとともに用いられるものがあった。

震災関連の記事3例中、震災のために行われるプロジェクトは、⑩と㉕の2例である。

次に、和語とともに用いられているグループを<表7>に示す。

<表7>和語とともに用いられているグループ

	掲載日	欄	本文
⑧	3月25日	生活	阪神大震災の遺族らでつくるNPO法人「1・17希望の灯（あかり）」は今回、「タスキ・プロジェクト」を立ち上げた。
⑬	4月25日	総合	震災復興イベント「待プロジェクトさくら」が開かれ、地元産のアサツキやアスパラガス、日本酒などが無料で振る舞われた。
㉖	7月5日	東特集	Yくんが住んでいる北九州市では、「菜（な）の花プロジェクト」をしています。菜の花から油をとって、料理に使い、使い終わったらその油を燃料（ねんりょう）にしてバスを走らせ、バスから出たCO2を、また菜の花に吸わせるという取り組みです。
㉔	12月25日	総合	2001年の小泉政権の発足から予算削減の的にされてきた公共事業では、今回、大型プロジェクトが相次いで復活した。

和語とともに用いられている用例は全44例中4例と、語種別に取り出した中では最も少なかった。和語とともに用いられている用例が少ないことについて、斎賀（1997）は、国立国語研究所が行った複数の雑誌を対象にした現代語の語彙調査から、和語名詞や和語動詞は、漢語に比べて結合力が弱いという見解を示している。

⑧と⑬は震災関連のプロジェクトである。⑧の「タスキ」は常用漢字ではなく難読であるため、カタカナ表記になっていると考えられる。⑬の「侍」は漢字表記であるが、「さくら」はひらがな表記となっている。語構成は前後に和語が付いた3語の複合語になっている。

⑳は北九州市が行っている環境プロジェクトの記事である。語構成は2語の複合語になっている。震災によって発生した原発事故により、2011年の夏季はメディアで繰り返し節電の方法が特集として報道されており、震災に関連したプロジェクトであると言える。

㉒は過去に計画されていた政府の大型プロジェクトの復活を取り上げた記事である。語構成は2語の複合語となっている。政府の事業は大規模なものが多いので、経済情勢などを背景に、一度計画されていたプロジェクトが中止になることがあることがうかがえる用例である。

和語とともに用いられている「プロジェクト」の中で、⑧、⑬、㉒の3例が鉤括弧の中にプロジェクトが表記されて名称を示し、4例中3例がプロジェクトの名称として使用されていた。

次に、漢語とともに用いられているグループを<表8>に示す。

<表8>漢語とともに用いられているグループ

	掲載日	欄	本文
②	1月25日	科学	80カ国以上、2千人を越す研究者が協力し、世界中の海で生物の分布や多様性を調べた国際プロジェクト「海洋生物センサス」。
⑥	3月5日	政治	今後公表される中国政府の5カ年計画にも盛り込まれ、国家プロジェクトとして位置づけられるという。
⑨	3月25日	特設	藤沢町民病院を拠点に自然と、同学会と合同の医療支援プロジェクトが始まった。
⑮	4月25日	社会	【助けあいジャパン】 内閣府と民間による共同プロジェクト。ボランティア情報ステーション
㉑	6月5日	グループ	中国は「東北工程」という国家的な歴史プロジェクトで、古代より東北に興った国はすべて中国史の一部であると発表した。
㉑	6月5日	東特集	93棟の建設費など約3億円は、森の再生プロジェクトを手がけている社団法人「モア・トゥリーズ」（東京）が出した。
㉔	7月5日	総合	新たな収入源を見つけることは簡単ではないが、ウインターバーザーでは、ノルウェーからの高压送電ケーブルと変電所の建設プロジェクトがあるという。
㉕	7月5日	オピニオン	「全日本柔道連盟（全柔連）の医科学委員会で頭部外傷発生時の対応マニュアルを作成し、安全指導プロジェクト特別委員会が『柔道の安全指導』の冊子を改訂した。
㉘	7月25日	総合	2005年、市はPFI導入に向け特命課の「プロジェクト推進課」を設置し、専任の職員3人が全国の先例を調べた。
㉙	8月25日	外報	中国はカダフィ政権下で石油開発や高速鉄道、住宅建設などの大規模な投資プロジェクトを次々と請け負ってきたが、情勢混乱でいずれも事業中断に。
㉚	9月25日	総合	東日本大震災の防災対応を調査して発展途上国のインフラ整備などに生かす共同プロジェクトを始めることで合意した。

④③	12月25日	特設	「大学生現役就職促進プロジェクト」(20億円)では、大学と連携し、就職未内定者に対して、在学中からハローワークに全員登録することで集中的に支援する。
----	--------	----	--

漢語とともに用いられているものは全44例中12例であった。②⑧と④③は鉤括弧の中に「プロジェクト」が用いられており、名称であることがわかる。

②は「プロジェクト」の直後に名称が鉤括弧の中に記載されている。語構成は2語の複合語となっている。

⑮は「助けあいジャパン」が名称を示しており、震災関連のプロジェクトである。

⑳の形容動詞「国家的な」は「歴史プロジェクト」を修飾しているが、可変的な修飾語で1語化しないため、2語の複合語となっている。

㉒は<表7>の②⑥と同様に、原発事故をうけドイツの原発に取材した震災関連の記事である。形容動詞「大規模な」は②⑥と同様に1語化せず、語構成は2語の複合語となっている。

㉔はスポーツの分野に「プロジェクト」が用いられている。語構成は6語の複合語である。

㉘は「特命課」という語から、プロジェクトのために新たに作られた課であることがわかる。

㉚は震災によって新たに立ち上げられたプロジェクトであり、2語の複合語である。

漢語とともに用いられているものは、㉔の6語、④③の5語のように、和語よりも複合する語数が多かった。斎賀(1997)が述べるように、漢語の結合力が強いことがわかる。

次に、外来語・外国語とともに用いられているグループを<表9>に示す。

<表9>外来語・外国語とともに用いられているグループ

	掲載日	欄	本文
⑤	2月5日	文化	同じ奏者が東京、大阪、名古屋の3都市で3年続けて公演する「プロジェクト3×3」。単発に終わりがちな若手の公演をあらため、名前と実力を定着させる狙いだ。
⑦	3月5日	生活	「Before9プロジェクト」を運営するIさんは、早起き仲間同士で「おはよう」とツイッターでつぶやき合うのが最近の日課だ。
⑪	4月5日	特設	・ゆうちょ銀行00900・5・29560「NVNAD国内支援口」 【Think the Earthプロジェクト】
⑫	10月5日	総合	今後は政策委員会にプロジェクトチームを設置し、エネルギー政策の見直し作業に着手する構えだ。
⑬	10月5日	総合	前原誠司政調会長は4日、原発定期検査後の再稼働やエネルギー政策を議論する党のプロジェクトチームの座長に大昌章宏元経済産業相の起用を発表。
⑰	11月5日	総合	TPPの交渉参加問題で、民主党内の推進派と反対派のせめぎ合いは4日も続き、プロジェクトチーム(PT)の意見集約案の作成が週明けにずれ込む見通しになった。
⑲	11月25日	教育	教授ら30人でプロジェクトチームを立ち上げ、これまでの7学部を、理系を中心とした四つの学域に再編した。

外来語・外国語とともに用いられているものは全44例中7例であった。⑤と⑦が鉤括弧の中に、⑪が【 】の中に「プロジェクト」が用いられており、プロジェクトの名称を示している。

⑤の「3×3」は「スリーバイスリー」と読むので、外来語・外国語グループに分類した。企業や政府の企画に限らず音楽の企画にもプロジェクトが使用されていることがわかる。語構成

は、「×」は記号であるが「バイ」と読むため1語の単語扱いとし、4語の複合語となっている。

⑪は震災の義援金を振り込む口座名として「プロジェクト」が用いられている。語構成に関して、「the」は冠詞であるが1語と考える。よって4語の複合語である。

⑫から⑳の4例とも、「プロジェクトチーム」の用例である。㉒と㉓は同じ記事内の用例で、エネルギー政策を見直すためのチームである。㉔は政府の特別チームであり、㉕は教育分野のチームである。外来語とともに用いられている4例全てがこの「プロジェクトチーム」であった。これは、「プロジェクトチーム」が1970年から新聞記事に用いられており、一般に広く知られているためであると思われる。

震災関連の記事4例中㉒、㉓、㉔の3例は震災のために設置された「プロジェクトチーム」である。⑪も震災のための義援金口座であるので、震災関連の「プロジェクト」の用例である。

次に、複数の語種とともに用いられているグループを<表10>に示す。

<表10>複数の語種とともに用いられているグループ

	掲載日	欄	本文
⑫	4月5日	特設	・みずほ銀行広尾支店 (普) 1826828「Think the Earthプロジェクト事務局」。
⑭	4月25日	本特	減税(減税日本)、愛(日本一愛知の会)、新政(新政みえ)、維(大阪維新の会)、龍(龍馬プロジェクト×吹田新選会)、
⑰	5月25日	総合	24日開いた税制改正プロジェクトチーム(PT)の会合で確認した。
⑱	5月25日	スポーツ	超党派でつくるスポーツ議員連盟スポーツ基本法制定プロジェクトチームは24日、スポーツ基本法案をまとめた。
⑲	6月5日	総合	ここには、民主党からは党成長戦略・経済対策プロジェクトチーム座長の直嶋正行元経産相が加わる。
㉔	7月5日	生活	絵をポストカードにして販売し、収益で被災地の子どものための机や画材を買いたいという。問い合わせはワールド・ハート・プロジェクト実行委員会
㉕	10月5日	総合	民主党は4日の政調役員会で10の調査会・プロジェクトチーム(PT)の設置を決めた。
㉖	11月5日	総合	経産省や外務省などが4日、民主党の経済連携プロジェクトチーム(PT)で説明した。自動車分野で2010年に日本がTPP交渉9カ国に支払った関税は1370億円。
⑳	12月5日	経済	「被災地の復興だけでなく、東京湾岸を新たな都市につくりかえることを含めた東日本プロジェクトで、アジアからの投資を東京などに呼び込む努力が必要だ」
㉗	12月25日	スポーツ	マルチサポート事業など、有力選手を国が直接支援するナショナル競技力向上プロジェクトに32億円が盛り込まれた。

複数の語種とともに用いられている用例は全44例中10例であった。

⑫は震災の義援金を振り込む口座名として用いられている。<表9>の⑪も類似した口座名であったが、⑫は6語の複合語となっている。

⑭は政治団体の名称に「プロジェクト」が用いられている。「×」は「かける」と読むため和語であり、「龍馬」は人名、「吹田」は大阪府にある市名であるので、和語と考える。

⑰、㉔、㉖は政府によって設置されたプロジェクトチームの記事であり、語構成は3例とも

4語の複合語となっている。

⑮はスポーツ選手の議員によって構成されたチームである。スポーツ関連法案のため、スポーツ欄に掲載されたようである。語構成は9語の複合語で、複合した語が最も多い用例である。

⑯は原発事故を発端に起こったエネルギー政策に関する記事である。このプロジェクトチームは震災に直接関係するものではなく、語構成は8語の複合語となっている。

⑰は震災関連のプロジェクトである。プロジェクトが鉤括弧に表記されていないが、「東日本プロジェクト」という名称であると思われ、3語の複合語となっている。

複数語のグループにも「プロジェクトチーム」の用例が9例中4例と多い。全体では44例中9例が該当し、中には⑳のように英語のproject teamの頭文字をとった(PT)という補足があるもの4例見られた。「プロジェクトチーム」は9文字と長く、字数に限られる新聞記事において、字数を減らすために(PT)と頭文字のアルファベットで表記しているのではないだろうか。実際に、(PT)と補足がある㉑の見出しには、「民主に10調査会・PT」とあり、今後「プロジェクトチーム」の省略形としてPTのみで用いられる可能性も考えられる。⑰、⑱、㉒、㉓のプロジェクトチームはいずれも政治分野のチームで、内閣とは別に設置される、ある問題について特化したチームであると考えられる。

次に、『朝日新聞』において1991年、2000年、2010年に出現した「プロジェクト」と、2011年に出現した「プロジェクト」の度数をまとめたものを<表11>に示す。

<表11> 『朝日新聞』におけるプロジェクトの出現度数 (括弧内は前項差)

プロジェクト	1991	2000	2010	2011
単独	11	11 (±0)	16 (+5)	11 (-5)
複合語	39	35 (-4)	40 (+5)	44 (+4)

2011年のプロジェクトの出現度数について、『朝日新聞』においては、2010年より出現度数が単独では減少し、複合語は増加するという結果となった。単独の「プロジェクト」の使用量は、この20年間に於いて顕著な変化は見られない。複合語についても、2011年は1991年と比較すると5例増加しているが、震災の影響により使用量が増えているとは言い難い結果となった。震災関連の「プロジェクト」は全44例中20例であり、震災復興のための直接的なプロジェクトの他、震災により起こった原発事故から、㉔の環境保護の推進や㉕のエネルギー論などをテーマに掲げた間接的なプロジェクトの例もあった。

8. 新聞記事における「プロジェクト」の使用状況のまとめ

新聞記事において、「プロジェクト」の用例は名詞用法のみであり、動詞の用例は見られなかった。また、『現代用語』に掲載されている「プロジェクト・メソッド」の用例は見られなかった。社会の様々な出来事を網羅的に報道していると思われる新聞記事であっても、より専門的な内容は報道しないと考えられる。さらに、企業経営の円滑化を目的として行われる「プロジェクト・マネジメント」の用例も新聞記事では見られなかった。これも「プロジェクト・

メソッド」と同じく、経済分野で用いられる専門用語であるためと考えられる。

1967年から『現代用語』に記載された「プロジェクト・チーム」の用例は、2011年の『朝日新聞』において9例見られ、それらは政府内に設置されたものが多かった。また、外来語として使用されている期間が長いいためか、「PT」とアルファベットで省略したものが「プロジェクト・チーム」とともに用いられていた。

プロジェクトに規模の大きさを示す修飾語が複合しているものは44例中2例あり、国家的、国際的なものを示す修飾語が複合しているプロジェクトは44例中3例であった。地方レベルでも、多くの人を対象にし、また多くの費用をかけているプロジェクトは大規模と言えるため、日本語として用いられ始めた時と同様に、新聞記事においては規模の大きなものに「プロジェクト」が用いられているようである。一方で、分野においては、宇宙開発に用いられているのではなく、政府の事業に加え民間やNPO法人が行う事業にも用いられている。また、教育分野や科学分野にも用いられ、芸術分野では音楽の企画名として用いられていることから、使用分野が拡大していると言える。

新聞記事では企画やイベント名だけでなく、銀行の口座名にも用いられていることがわかった。名称として用いられている「プロジェクト」に複合する語は、和語と外国語、外来語が多かった。複合語の「プロジェクト」について、「プロジェクト」に複合した語数は、1語が15例、2語が5例、3語が5例、4語が3例、5語が3例、7語と8語が1例であった。和語と結びついたものはあまり見られなかったが、複数の漢語や外来語と結びついた複合語が見られることから、「プロジェクト」の造語力は強いと言えよう。

9. おわりに

本稿では、調査資料を新聞記事に限定したため、政治分野の用例数が多く、文化分野の中でも芸能分野の用例である「ハロー！プロジェクト」のような「プロジェクト」の使用状況の確認ができなかった。調査ではテレビ欄を除外したこと、芸能報道は週刊誌やスポーツ新聞のような分野に特化した新聞で報道されることが、芸能関係に用いられる「プロジェクト」を確認できなかった要因であると思われる。また、新聞記事では話題になるものが記載されるという性質があり、用いられる範囲の拡大について明確な根拠を出せるとは言い難い。新聞記事では動詞的用法で用いられていないが、Googleで検索すると「プロジェクトする」という例文が見られた。ブログの記事のタイトルとして「元気が出る広報」をプロジェクトする」などのように用いられていた。新聞記事のようなフォーマルな書き言葉では用いられないが、話し言葉で書かれることの多いブログでは若者言葉のようにして用いられているようである。

使用量に関して、調査対象日を毎月5日と25日に限定し、全体で24日分ということで、資料が不足していたことは否めない。調査対象としなかった日にプロジェクトの記事が記載されている可能性は大いにあるので、1年分の新聞記事を調査すれば、より精密な結果が得られるだろう。加えて、新聞記事のみでは使用分野に偏りが生じていると考えられるので、雑誌やインターネットも対象として調査することが必要であり、今後の課題としたい。

【参考文献】

- 遠座知恵・橋本美保（2009）「日本におけるプロジェクト・メソッドの普及－1920年代の教育雑誌記事の分析を中心に－」東京学芸大学発行『東京学芸大学紀要』第60巻 pp.53－65
- 岡野貞夫（1970）「プロジェクト・チーム」『組織科学』第4号(3) pp.61－69
- 影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房
- 金安岩男（2002）『プロジェクト発想法』中央公論新社
- 金愛蘭（2011）「20世紀後半の新聞語彙における外来語の基本語化」大阪大学発行『阪大日本語研究』別冊3
- 斎賀秀夫（1997）「語構成の特質」斎藤倫明・石井正彦編『語構成』ひつじ書房
- 名柄迪・茅野直子・中西家栄子（1989）『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』アルク
- 森武麿・浅井良夫・西成田豊・春日豊・伊藤正直（1993）『現代日本経済史』有斐閣
- 『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド第3版』PMI（2004）
- 『朝日新聞』1945年1月1日～2011年12月5日 朝日新聞社

【参考辞書類】

- 『日本国語大辞典』（2002）小学館／『大辞林第三版』（2006）三省堂／『カタカナ語・略語辞典第三版』（2000）旺文社／『現代用語の基礎知識』（1963-2010）自由国民社／『ジーニアス英和辞典』（2008）大修館書店／『新英和大辞典』（2002）研究社／『メモリー英語語源辞典』（1998）大修館書店／『スタンダード英語語源辞典』（2004）大修館書店

（たきもと・まなみ）